

『よみがえられたキリスト』

'21/12/05

聖書箇所: ルカの福音書 24 章 44-53 節 (新約 p.171)

今日は、先週に続いて、「ルカの福音書」に記されてある最後のみことばを学んでいきます。この福音書は当時、医者でもあったルカが書き記してくれたものでありますが、彼は所謂、「12 弟子」ではありませんでした。また、ルカがいつイエス様の弟子になったのかは分かりません…。しかし、間違いなく分かることは、ルカは、あのパウロの親友であり…。また、同労者であったということです(コリサイ 4:14; II テモテ 4:11; ビレモン 24)。そして、ルカはパウロが殉教をする、その最期まで一緒にいました。彼は非常に、信頼の置ける人物であり…。かつ誠実なクリスチャンであったことは間違いありません。

さて、この「ルカの福音書」は、そのルカが徹底的に証拠を集めて…。そして、できるだけ忠実に書き記してくれた、信頼に足る「証しの書」であります。それと、もちろん、万物の創造主なる真の神様が、このルカの背後にいらっしゃる、聖霊なる神様の導きをもって、この福音書が書き記されたことは言うまでもありません。この福音書によって、実に、多くの真理が明らかにされ…。そして、その真理によって、多くの救われる魂が起こされ…。多くの者たちが励まされてきたことを、私たちは知っています。

命題: よみがえられたイエス様が、弟子たちに教えてくださった内容とは？

今日は、先週の礼拝とも重なりますが…。あの十字架の死からよみがえってくださったイエス様が、その弟子たちに教えてくださった内容について学んでいきたいと思えます。そうすることによって、今日、このメッセージを聴いてくださった皆さんが、すべてのことの背後におられる真の神様のことをますます知ってくださると同時に、その神様から与えられた恵みの数々を無駄にすることなく…。本当に価値ある人生を送っていかけてくださいますことを願います。どうぞ、聖書をお持ちでしたら、今日のみことばである、ルカ 24:44 以降をお開きくださいますようお願いいたします。

I・神のみことば(=聖書)は、**真実**である！(44 節)

今日のみことばが、まず、最初に教えてくれている内容は、**神様からのお言葉である聖書が、「真実」である！**ということであり。まずは、そのことを見ていきたいと思えますので、どうぞ、今日のみことばの内、ルカ 24:44 だけをご覧ください。そこには、こう記されてあります。

44 さて、そこでイエスは言われた。「わたしがまだあなたがたといっしょにいたころ、あなたがたに話したことはこうです。わたしについてモーセの律法と預言者と詩篇とに書いてあることは、必ず全部成就するということでした。」

●聖書のみことばの「真実性」

ここでイエス様は、何をおっしゃっておられるのでしょうか？⇒それは、聖書のみことばの「真実性」ということではないでしょうか？なかでも、その聖書に書かれてある内、ご自分について書かれてある内容が、すべて真実であって…。そのために、自分について書かれてある内容がすべて成就するのだ！ということ、ここで、イエス様は教えてくださっています。そうですね？

どうか、皆さん、ここで、私たちが先週に学んだ状況を思い出していただけますか？その時、イエス様は、あの十字架の死から復活されて、12 弟子たちの前に現れてくださいました。「12 弟子たち」と言いまして、そこには、イエス様のことを裏切ったイスカリオテは居りません。彼はイエス様が十字架にかけられることを知って、自分がイエス様のことを売ったことを激しく後悔して、首を吊って、死んでしまったからです。

また、この時には、12 弟子たちの内、トマスだけが居なかったことも、ヨハネ 20 章のみことばから明らかです。…と同時に、この時には、私たちが先週に学んだ、あのエマオ途上でイエス様と話し合った弟子たち(クレオパともう1人)も、恐らくは、一緒に居たと思われ。このことは、イエス様が十字架にかかれた、すぐ後の日曜日に起こりました。これらのことが、日曜日の…。しかも、夕方起こったことは、ルカ 24 章からも…。また、ヨハネ 20 章からも明らかです。

さて、その時、イエス様は、こういったことを弟子たちに教えられました。44 節、「わたしがまだあなたがたといっしょにいたころ、あなたがたに話したことはこうです。わたしについてモーセの律法と預言者と詩篇とに書いてあることは、必ず全部成就する…」って…。ここで言われている、「モーセの律法と預言者と詩篇…」と言いますのは、間違いなく、今で言うところの、「旧約聖書」のことを指しています。今から 2000 年も前…。イエス様の時代には、モーセの律法と、預言者の書と、詩篇を始めとする諸書が聖書の全巻、つまりは、聖書のみことばでありました。つまり、イエス様は、かつて弟子たちと一緒に居た頃から、「自分に関する、聖書に書かれてあるすべてのみことばが成就すると言っておいでしよ！」ということ、ここで話しておられるのです。

でも、もちろん、聖書のみことばが成就するというのは、何もイエス様に関する預言だけではなく…。それ以外の部分においても…。すべて成就する！ということ言うまでもありません。そのことについて、使徒ペテロは、こんな風に説明してくれています。それが、II ペテロ 1:21 のみことばです。そこには、こう記されてあります、「なぜなら、預言は決して人間の意志によってもたらされたのではなく、聖霊に動かされた人たちが、神からのことばを語ったのだからです。」って…。⇒良いです？皆さん。聖書に記されてある、様々なストーリーや預言などは、昔の人が適当に考え出したような作り話ではありません！聖書に記されてある、すべての言葉は皆、聖霊なる神が色々な者たちを用いて書き記してくださった、神様からのお言葉なのです！それゆえに、私たちは、この聖書のみことばを重んじ…。敬意を払うべきであります。だから、今読んだみことばの直前には、こういったことが命じられてあります。それが、II ペテロ 1:20、「それには何よりも次のことを知っていなければいけません。すなわち、聖書の預言はみな、人の私的解釈を施してはならない、ということ。」という教えです。

『聖書の預言はみな、人の私的解釈を施してはならない…』、このようにみことばは教えてくれています。…にも関わらず、イエス様の時代にあつて、多くのパリサイ人たちや律法学者などという教師たちは間違った教えを説いて、当時の民たちを誤った方向へと導いてしまっていました…。

皆さん、覚えてくださっていますか？イエス様は、マタイ 5 章でも、今紹介したみことばと、よく似たことを教えてくださっています。どうぞ、もしできましたら、マタイ 5:17-24 をお開きください。『17 わたしが来たのは律法や預言者を廃棄するためだと思ってはなりません。廃棄するためではなく、成就するために来たのです。18 まことに、あなたがたに告げます。天地が滅びうせない限り、律法の中の一点一画でも決してすたれることはありません。全部が成就されます。19 だから、戒めのうち最も小さいもの一つでも、これを破ったり、また破るように人に教えたりする者は、天の御国で、最も小さい者と呼ばれます。しかし、それを守り、また守るように教える者は、天の御国で、偉大な者と呼ばれます。20 まことに、あなたがたに告げます。もしあなたがたの義が、律法学者やパリサイ人の義にまさるものでないなら、あなたがたは決して天の御国に、入れません。21 昔の人々に、『人を殺してはならない。人を殺す者はさばきを受けなければならない』と言われたのを、あなたがたは聞いています。22 しかし、わたしはあなたがたに言います。兄弟に向かって腹を立てる者は、だれでもさばきを受けなければなりません。兄弟に向かって『能なし』と言うような者は、最高議会で引き渡されます。また、『ばか者』と言うような者は燃えるゲヘナに投げ込まれます。23 だから、祭壇の上に供え物をささげようとしているとき、もし兄弟に恨まれていることをそこで思い出したなら、24 供え物はそこに、祭壇の前に置いたままにして、出て行って、まずあなたの兄弟と仲直りをしなさい。それから、来て、その供え物をささげなさい。』

⇒イエス様がここで教えてくださったように、イエス様の時代にあつては、実に、多くの間違つた教えというものが、はびこっていました。…と言いますのは、当時の律法学者やパリサイ人たちが、自分たちの好き勝手に、聖書のみことばを解釈しては、さもそれが正しいかのように教えていたからです。それはまさしく、『私的解釈』(Ⅱペテロ 1:20)以外の何物でもありません！だから、イエス様は、「律法学者やパリサイ人たちが以上の者でないで救われ得ない！」ということを教えられたのです。

●聖書のみことばを 軽んじる 傾向にある現代

そして、これまた悲しいことに…、現代にあつても、実に多くの教会や教師たちが、勝手な私的解釈をしてしまっています。もちろん、誰にだって間違いや勘違いは起こり得ます。こう言っている私だって、「じゃあ、いつもいつも、正しい聖書解釈ばかりをしているか？」と問われれば、間違いなく、そうではないと私も知っています。…しかし問題なのは、多くの教師たちが、真剣にみことばを考えたり、よく観察することをせずに…、ほんの少し、聖書のみことばを観察すれば、すぐに気付くような間違いにさえ気付かないで、耳触りの良いような…、人が聞きたいような教えばかりを話す傾向にあることです。

マタイ 5 章で、イエス様が警告をしてくださっているように、私たちに必要なことは、正しくみことばを解釈することと…、その学んだみことばを“実践していくこと”であります。果たして、皆さんは、今までに聞いたみことばを実践しておられるでしょうか？どうぞ、皆さん、考えてみてくださいませ！一体、どうして、イエス様は、ある者たちのことを非難しておられるのでしょうか？

⇒簡単に言うと、それは、その者たちが神様のみことばを軽んじてしまっているから、ではないでしょうか？だから、イエス様は、聖書の戒めの内、どんな小さなものであつても、それを破ったり、破るように教える者たちのことを非難しておられるわけでしょう？また、『人を殺してはならない！』ということを教わっていないから…、兄弟に向かって、『能なし』とか、『ばか者』などと言うような者は、『燃えるゲヘナに投げ込まれませ…』、つまり、救われていない！というわけでしょう？そういう者たちは皆、神様から聞いたみことばを軽んじている…、あるいは、ないがしろにしている！と言うのです。つまり、本当に救われている者は皆、真の神様と…、その神様のみことばを愛し、守ろうとするのです！違います？

まさしく、Ⅰヨハネ 5 章で教えられてある通りです！ Ⅰヨハネ 5:1-3、『1 イエスがキリストであると信じる者はだれでも、神によって生まれたのです。生んでくださった方を愛する者はだれでも、その方によって生まれた者をも愛します。2 私たちが神を愛してその命令を守るなら、そのことによって、私たちが神の子どもたちを愛していることがわかります。3 神を愛するとは、神の命令を守ることです。その命令は重荷とはなりません。』⇒ここで教えられてありますように、もしも、皆さんが本当に救われていて…、自分のことを救ってくださった神様のことを愛しておられるのなら、その神様のみことばである聖書を軽んじたりはできないはずですよ。そうではないでしょうか？

一体、どうして、イエス様は、律法や預言者の教えを廃棄することなく…、その一点一点までも成就されようとしたのでしょうか？それは、それらが神様からのお言葉であり…、神様のみことばであつたからです！皆さん、覚えてくださっていますか？…少し前に私たちが学んだみことばのマタイ 26:54 で、イエス様は、大祭司のしもべたちが自分のことを捕らえるために来た時、それに歯向かうとしたペテロに対して、『だが、そのようなことをすれば、こうならなければならないと書いてある聖書が、どうして実現されましよう。』と言って、イエス様は、ご自分のいのちを捨てても、父なる神様のみことばに従おうとされたのです！…そのように、イエス様もまた、父なる神様を愛し…、そのみことばを重んじておられました。だから、イエス様は、その死に至るまでも、聖書のみことばに忠実であられたのです。でも…、果たして、私たちは、この聖書のみことばに対して、忠実であるでしょうか？どうぞ、そういったことを、今一度、よく考えていただきたいと思ひます。

Ⅱ・救いの道を、神が完成してくださった！(45-48 節)

次に、今日のみことばが教えてくれていますことは、**真の神である御方が、私たちのために、“救い”の道を完成してくださった！**ということでもあります。どうぞ、もう1度、今日のみことばに戻っていただきまして、ルカ 24:45-48 をご覧ください。

45 そこで、イエスは、聖書を悟らせるために彼らの心を開いて、

46 こう言われた。「次のように書いてあります。キリストは苦しみを受け、三日目に死人の中からよみがえり、

47 その名によって、罪の赦しを得させる悔い改めが、エルサレムから始まってあらゆる国の人々に宣べ伝えられる。

48 あなたがたは、これらのことの証人です。

●『罪の赦しを得させる 悔い改め』とは？

ここ 45 節に、『そこで、イエスは、聖書を悟らせるために彼らの心を開いて…』と書かれてありますように、この時点で、イエス様の弟子たちは、神様のみことばである聖書を、まだ完全に理解できていない、とは言えなかったようです。

そこで、イエス様は、こんなことをおっしゃってくださいませ。それが、先程読んだみことばの内、46 節後半から 48 節までの部分です。『46 …キリストは苦しみを受け、三日目に死人の中からよみがえり、47 その名によって、“罪の赦しを得させる悔い改め”が、エルサレムから始まってあらゆる国の人々に宣べ伝えられる。48 あなたがたは、これらのことの証人です。』って…。

⇒ここでも、イエス様は、とても大切なことを、弟子たちに語ってくださいませ。それは、どうしたら、私たちの犯してきた罪が赦されるか？という問題です。そのことについて、イエス様は、何とおっしゃっておられます？ここで、イエス様は、私たちの罪が赦されるための方法を、「ご自分が苦しみを受け、3 日目に死からよみがえったことを“信じる信仰によって救われる”…」とは、おっしゃっておられないでしょ？

何と、イエス様は、ここで、私たちの罪を赦されるための方法が、『罪の赦しを得させる“悔い改め”…』とおっしゃっておられるのです。しかし、これは一体、どういうことなのでしょう？だって、私たちの罪が赦されるための唯一無二の方法は、「イエス様を信じるという信仰だけである！」というのが、私たち…、多くのキリスト教会が持っている理解ではないでしょうか？…でも、だったら、どうして、ここで、イエス様は、そうはおっしゃらなかったのでしょうか？

⇒このことについて、私たちは、もう何度も何度も学んで参りました。そうですね？でも、このことは、私たちが何度学んでも学び足りないくらい重要なことなので、もう1度、聴いてください。どうぞ、皆さん、もしできましたら、ルカ 3:1-8 をご覧ください。『1 皇帝テベリオスの治世の第十五年、ポンテオ・ピラトがユダヤの総督、ヘロデガリラヤの国主、その兄弟ピリポがイツリヤとテラコニエ地方の国主、ルサニヤがアビレネの国主であり、2 アンナスとカヤパが大祭司であつたころ、神のみことばが、荒野でザカリヤの子ヨハネに下つた。3 そこでヨハネは、ヨルダン川のほとりのすべての地方に行つて、罪が赦されるための悔い改めに基づくバプテスマを説いた。4 そのことは預言者イザヤの書に書いてあるとおりである。「荒野で叫ぶ者の声がする。『主の道を用意し、主の通られる道をまっすぐにせよ。5 すべての谷はうずめられ、すべての山と丘とは低くされ、曲がった所はまっすぐにになり、でこぼこ道は平らになる。6 こうして、あらゆる人が、神の救いを見るようになる。』7 それで、ヨハネは、彼からバプテスマを受けようとして出て来た

群衆に言った。「まむしのすえたち。だれが必ず来る御怒りをのがれるように教えたのか。8 それならそれで、悔い改めにふさわしい実を結びなさい。『われわれの父はアブラハムだ』などと心の中で言い始めてはいけません。よく言うておくが、神は、こんな石ころからでも、アブラハムの子孫を起すことがおできになるのです。』

⇒こども、私たちがかなり前に学んだみことばですが、実は、悔い改めこそが、あのバプテスマのヨハネが1番に語ってくれた内容でありました。そうですね？しかも、その『悔い改め』を説くように、バプテスマのヨハネに示されたのは、他の誰でも無い神様御自身であったのです！だから、今読んだ、2節にも、『…神のことばが、荒野でザカリヤの子ヨハネに下った。…』と書かれてあるわけですね。バプテスマのヨハネは、自分勝手な悟りを説いたのではありません。神様からのメッセージを、そのまま語ったのです！それが、『悔い改め』であったのです。…だから、皆さんも覚えてくださっていると思います、イエス様が宣教を開始された時の、1番の強調点は何でした？⇒そのことについて、マタイ 4:17 では、こう記されてあります。『この時から、イエスは宣教を開始して、言われた。「悔い改めなさい。天の御国が近づいたから。」』って…。何と、イエス様も、最初の宣教の言葉は、『悔い改めなさい！』であったのです。

でも、こういったことを言いますと、一部のクリスチャンの先生方は、こんなことをおっしゃいます、「それは、そうです。だって、イエス様は、元々、バプテスマのヨハネの“弟子”であられたのですから…」って…。でも、本当ですか？イエス様は、元々、バプテスマのヨハネの弟子であられたのでしょうか？…多分、多くのキリスト教の歴史家の先生なら、こう答えられると思います。「そうですね！だから、イエス様は、バプテスマのヨハネから、バプテスマを受けられたじゃないですか！」って…。

でも、果たして、聖書のみことばは、イエス様がかつて、バプテスマのヨハネの弟子であられた、なんていうことを教えているのでしょうか？そういう問題について、ここにおられる皆さんなら、正しい答えをご存知だろうと思います。例えば、マタイ 3 章では、イエス様がバプテスマを受けられた時の状況について、こう記してくれています。マタイ 3:11-15、『11 私は、あなたがたが悔い改めるために、水のバプテスマを受けていますが、私のあとから来られる方は、私よりもさらに力のある方です。私はその方はきまものを脱がせてあげる値うちもありません。その方は、あなたがたに聖霊と火とのバプテスマをお授けになります。12 手に箕を持っておられ、ご自分の脱穀場をすみずみまできよめられます。麦を倉に納め、穀を消えない火で焼き尽くされます。』13 さて、イエスは、ヨハネからバプテスマを受けるために、ガリラヤからヨルダンにお着きになり、ヨハネのところに来られた。14 しかし、ヨハネはイエスにそうさせまいとして、言った。「私こそ、あなたからバプテスマを受けるはずなのに、あなたが、私のところにおいでになるのですか。』15 ところが、イエスは答えて言われた。「今はそうさせてもらいたい。このようにして、すべての正しいことを実行するのは、わたしたちにふさわしいのです。』そこで、ヨハネは承知した。』

⇒いかがでしょう？皆さん、果たして、聖書のみことばは、イエス様がかつては、バプテスマのヨハネの弟子であられた、なんていうことを教えているのでしょうか？いいえ、全く、そうではありません。イエス様は、初めから、救い主であられ…、誰の弟子でもありませんでした。強いて言うなら、バプテスマのヨハネの方が、(イエス様の)弟子…、あるいは、格下の存在であったとも言い得るのです。そうですね？

こんなことを言いますが、今度は別の先生が、こうおっしゃる可能性も有り得ます、「この時点では、まだ、イエス様が宣教を開始されたばかりで、イエス様が罪を贖うために十字架で死んで、よみがえっておられないからだ。イエス様が十字架にかかって、よみがえってくださった以降は、そのイエス様を信じる“信仰”こそが、私たちが救われるための唯一の道である！」って…。でも、これまた本当でしょうか？だって、今日私たちが学んでいるみことばは、イエス様が十字架で死んで…、よみがえってくださった後に語ってくださっている内容ですよね？…にも関わらず、今日のみことばの 47 節で、イエス様は、信仰ではなく

…、『罪の赦しを得させる悔い改め』とおっしゃっておられるのです。これは、一体、どういうわけなのでしょう？

⇒こういったことの…、1番バランスの取れた、聖書的な理解は、「救いに至る悔い改めも…、また、聖書的な信仰も、どちらも同じである。それらは、表裏一体であって、本物の正しい悔い改めは、必ず、真の神様を信じるという信仰に至るはずだし…、もしも、悔い改めを伴わない信仰があるなら、それは、本物の信仰ではない！」ということだと、私たちは考えています。

●現代のキリスト教界における、1つの 問題点 !

私が、こういったことを何度も何度も言いますのは、こういった点で、現代のキリスト教界が少し違った方向に歩みつつあるからです。そのことを、もう少し分かり易くと言うか…、少しオーバーに言い換えますと、こういうことです。「人が救われるために必要なのは、信仰だけであって…、悔い改めなんて必要ない！」というような教会や教師が、今、少なからず、存在しています。いえ、ひょっとしたら、そういった考えの方がむしろ主流なのかも知れません。でも果たして、それらは正しい理解なのでしょうか？果たして、そういったような教えは、本当に、この聖書が教えてくれている、救いのメッセージなのでしょうか？どうぞ、そういったことを、皆さんも、できたら、自分自身で、聖書を学んで理解していただきたいと思います。

果たして、聖書は本当に、救いに必要なものは、信仰だけであって…、悔い改めは必要ない！ということをおっしゃっているのでしょうか？私が見たところ、皆さんは、もう十分に、そのことをご理解してくださっていると思いますけれども、もしも、そういったことについて関心があるようでしたら、John MacArthur 先生の書かれた「イエスの福音」という本を学んでいただきたいと思います。

では、どうぞ、もう1度、今日のみことばに戻っていただきまして…、その 47-48 節をご覧くださいませんか？『47 その名によって、罪の赦しを得させる悔い改めが、エルサレムから始まってあらゆる国の人々に宣べ伝えられる。48 あなたがたは、これらのことの証人です。』⇒ここでイエス様が預言してくださったように、この聖書のみことばが教えてくれている、イエス様による救いのメッセージは、文字通り、当時のエルサレムから始まって、今や全世界にまで広められました…。そうですね？イエス様は、ここ 48 節で、弟子たちに向かって、『あなたがたは、これらのことの証人です。』ということをおっしゃられました。そうですね？イエス様は…、また、神様は、この福音宣教のために、弟子たちのことを用いてくださったのです。

そういったことは、何も、この当時の弟子たちだけに託された働きではありません。神は今、ここに居て…、このメッセージを聴いてくださっている皆さんのことをも、用いようとしてくださっているのです！でも、果たして、皆さんは、この救いのメッセージを、ちゃんと正しく理解できているのでしょうか？あるいは、この福音のメッセージを伝えたい！と願っておられるでしょうか？そしてまた、皆さんは、この福音を証しするような、言葉だけでなく…、あなた自身の生き方をもって、この神様のことを証しできているのでしょうか？どうか、そういったことを吟味する者であっていただきたいと思います。

Ⅲ・助け主 を、神が遣わして下さる！(49-53 節)

そして、どうぞ、今日のみことばの最後の部分をご覧ください。そこで、イエス様は、私たちに大切なことを伝えてくださっています。それは、神様が、私たちに託された働きをなすため、「助け主」を遣わして下さる！ということです。どうぞ、今日のみことばの、ルカ 24:49-53 をご覧ください。

49 さあ、わたしは、わたしの父の約束してくださったものをあなたがたに送ります。あなたがたは、いと高き所から力を着せられるまでは、都にとどまっていなさい。」

50 それから、イエスは、彼らをベタニヤまで連れて行き、手を上げて祝福された。

51 そして祝福しながら、彼らから離れて行かれた。
52 彼らは、非常に喜びを抱いてエルサレムに帰り、
53 いつも宮にいて神をほめたたえていた。

●ここで、イエス様が 約束 してくださっていること

今読んだみことばで、イエス様は、あることを“約束”してくださっています。でも、イエス様は、そのことに
関して、どうしたわけか、詳しく説明してくださってはいません。でも、十分なヒントは与えてくださっています。
まず、ここでイエス様は、それが、父なる神様の約束してくださったものであるということを見せてくださ
っています。そして、それは、『いと高き所から…』、送られてくるということ…。そしてまた、私たちは、それが
送られると、『力を着せられる…』ということなどであります。そして、最後に、『都にとどまっていなさい…』
とあることから、恐らく、それは、エルサレムの都で起こるであろうことです。

そういうことは、その当時の弟子たちには分からなかったとしても…、実際に、そのことが起こった後の
現代に生きる私たちになら分かります。それは、間違いなく、聖霊なる神様が、イエス様を信じるクリス
チャンの1人1人に与えられたことを指しています。そうですね？

そのことについて、イエス様は、あらかじめ、こんな風に弟子たちに教えてくださっていました。どうぞ、皆
さん、もしできましたら、ヨハネ 16:7-13 をお開きください。『7 しかし、わたしは真実を言います。わたしが
去って行くことは、あなたがたにとって益なのです。それは、もしわたしが去って行かなければ、助け主があ
なたがたのところに来ないからです。しかし、もし行けば、わたしは助け主をあなたがたのところに遣わし
ます。8 その方が来ると、罪について、義について、さばきについて、世にその誤りを認めさせます。9 罪
についてというのは、彼らがわたしを信じないからです。10 また、義についてとは、わたしが父のもとに行
き、あなたがたがもはやわたしを見なくなるからです。11 さばきについてとは、この世を支配する者がさ
ばかれたからです。12 わたしには、あなたがたに話すことがまだたくさんありますが、今あなたがたはそれ
に耐える力がありません。13 しかし、その方、すなわち真理の御霊が来ると、あなたがたをすべての真
理に導き入れます。御霊は自分から語るのではなく、聞くまを話し、また、やがて起ころうとしていること
をあなたがたに示すからです。』

⇒今日は、時間の関係もあって、詳しくは話せませんが…、ここでイエス様は、私たちの助け主なる、
聖霊なる神様について預言をしてくださっています。その助け主であられる聖霊は、父なる神様、子なる
イエス・キリストと並んで、神であられます。ですから、私たちは、この聖書が教える神様のことを、「三位
一体なる神様」と呼んで、それぞれの個性や個性などを認めつつも…、その存在としては唯一であられ
る神様を信じているわけです。

その助け主であられる聖霊が来てくださる！何と、私たちのところへと来てくださる！ということイエス
様は約束してくださりました。しかも、それだけではありません。その聖霊は、罪についてだったり…、義に
ついて、裁きについて、この世に、その誤りを認めさせてくださると言うのです。そして最後、13 節にありま
したように、この聖霊は、私たちのことを真理へと導いてくださるのです！このことは、現代の私たちにと
りましては、未来の出来事ではありません。神様は、もう既に、聖霊なる神様を、私や皆さんへの助け主
として与えてくださったからです！

今、イエス様を信じておられる皆さんの内に、もう既に、聖霊なる神様は住んでくださっています。だか
ら、皆さんは、イエス様のことを信じるのができたい…、かつて、イエス様を信じる前からすると考えられ
ないような生き方をなさっておられるのです。そうじゃないでしょうか？だって、皆さんが、毎週、神様を礼拝
するために、教会に通うなんて誰が想像できました？自分のためではなく…、この神様のために生きよ
う！なんて、救われる前の皆さんからすると考えられないことだったのではないのでしょうか？そうですね？

そのように、皆さんはイエス様を信じて…、この聖霊を受けたが故に、大きく変えられたのです！しかも、
それらは皆、皆さんの功績ではなく…、神様の力によるものであったのです。

●私たちが今、なす べきこと

どうぞ、もう1度、今日のみことばに戻っていただきまして…、その50節以降をご覧くださいますと、そ
れ以降の弟子たちの行動が記されています。イエス様から教えを受けた後、弟子たちはイエス様からの
祝福を受けて、大喜びで、エルサレムまで帰って来て…、そして、ますます、神をほめたたえる者となっ
ていったのです。

それ以降の弟子たちの行動に関しては、もう既に、皆さんもご存知です。その後、弟子たちは約束通
り、助け主としての聖霊を受けて…、大胆にイエス様の復活と、イエス様を信じる信仰による救いのメッ
セージを伝えていきます。そして、この世の中は、この福音のメッセージによって大きく変えられていったの
です！だから今、全世界中に、イエス・キリストの復活が伝えられ…、そのイエス様を信じるクリスチャンた
ちは、週の初めの日曜日に、それこそ世界中で真の神様のことをあがめ、ほめたたえる礼拝を捧げてい
ます。

このように、天の神様は、私たちの必要をすべて約束通りに満たしてくださいました。つまり、神は、聖
書のみことばをもって、私たちに様々な真理を教えてくださいました。次に、神様は、約束の救い主を与
え、その救い主であられるイエス様を十字架で、私たちの身代わりとして殺すことで、私たちが救われる
道を完成させてくださいました。そして、最後、神は、私たちの助け主としての聖霊を約束通りに送っ
てくださいました。このように、神様は、私たちにに対して、すべて約束を実行してくださって、私たちに必要な
ことを満たしてくださいましたのです！

<励ましの言葉>

果たして、あなたは、どうなさいます？まず、あなたは、この神が用意してくださった救いを、自分のもの
としてくださっているでしょうか？そして、次に、皆さんは、この神様に感謝をして…、その神様に喜ばれ
るような歩みをしてくださっているでしょうか？…また、皆さんは、この神が与えてくださった助け主により頼
んで、神の前に正しく…、そして、この神様のことを…、この救いのメッセージを伝える者でいらっしやるで
しょうか？

神様は今、皆さんのことを選び…、多くの恵みをもって、皆さんのことを祝してくださっています。そして、
今、神様は皆さんのことを用いようとなさっておられるのです。どうぞ、この神様からの恵みを無駄にすること
なく…、神様の前に、ますます価値ある人生を送っていただきますことを、心からお勧めいたします。
最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終らせていただきます。